

# 日本の若者に台湾のことを伝える

謝<sup>シエ</sup> 雅梅<sup>ヤメイ</sup> ● 本会理事  
産能短大講師



謝雅梅理事

私は数年前から日本の大学で教える機会を頂戴し、教育の仕事に携わることになった。

毎年、新学期を迎えると、クラスにやってくる学生たちが私の祖国・台湾を知っているかどうか、あるいは彼らが台湾をどのように見ているのかを知るのが、私にとって楽しみの一つである。

そのために、最初の授業で私はいつも「台湾クイズ」をやることにしている。具体的に言うと、まず黒板に台湾、日本、中国などを示す東南アジアの略図を書き、自分の出身地は中国の横、そして日本とフィリピンの間にある。この島「だと言って指し、「この国の名前は何でしょう？」と彼らに質問して当ててもらおうのだ。

さて、その結果はどうだろうか。みんな素早

く台湾と当ててくれる、と言いたいところだが、たいていはその逆。「タイ」「シンガポール」「マレーシア」……というようにいろいろな国名が出た後、ようやく「台湾」の名が上がるというのが現状だ。

日本の教科書は中国や韓国の「反日」については取り上げても、台湾のことは取り上げない。それどころか、台湾を中国の領土と表示している教科書さえ依然として使われている。それを考えれば、日本の学生たちの台湾に対する認識が薄いのは仕方ないように思う。

だから私は、日本の若者にもう一つの台湾、もう一つの日本を知ってもらうために、毎回の授業の中で必ずと言っていいほど台湾のことを紹介している。たとえば日本、中国を絡めた台

湾の歴史を始めとして、近年日本人の間でも人気の台湾のお茶、屋台、縁起を担ぐ話、台湾人の恋愛観などに至るまで、学生に興味を持ってもらうため、台湾に関するソフトな話題を授業に盛り込むことを心掛けています。

また、より積極的に台湾と日本の関係を理解してもらうため、学生たちにレポートを書いてもらっている。テーマはズバリ「台湾と日本の関係について」。

台湾から「もう一つの日本」が見えてくるという話はよく聞くが、「台湾人の親日に驚きました」「韓国と違った日本観を知ることができました」など、学生たちが書いてくれたレポートにもそれがあらわれている。このように、台湾について知ってもらうことに加え、台湾からもう一つの日本観を持ってもらうことが私の本当の願いである。

教育の仕事に携わり今年で五年になる。学生たちがどこまで台湾について理解を深めたかはわからないが、たびたび送られてくる台湾に遊びに行ったときの写真から、少なくとも親近感

を持ってくれたことは間違いないと思う。

さて、ちょっと話はかわるが、私が来日して十九年目に入ろうとしている。もともと依存心の人一倍強かった私がこんなに長く外国で暮らすことができたことに、家族をはじめとして知人たちはみな驚いている。

しかし、自分ならわかる。こんなに私を強くしてくれたのは誰でもない「台湾」なのだ。世界で台湾が置かれている状況、つまり中国の一部と誤解されている現状を知るにつれ「台湾のために何かしなければ」という気持ちが強まます。強くなり、その台湾への思いが私の原動力となったわけである。

「故郷を出ると人は愛国者になる」という言葉を目にしたことがある。この言葉が誰にでも当てはまるとは思わないが、私にはぴたりである。私の台湾を思う気持ちが生まれたのもまさに日本に来てから。この気持ちを近い将来、日本の若者だけでなく台湾の若者にも伝えていきたいと計画を立て、それに向かって進んでいる。今日この頃である。